

一千万以上の人々が住んでいるために、その均質性が保てるわけです。ところが、それと全く対照的に、カナダは世界第二の広大な国土をもちながら、人口はわずか二千三百万人、しかもその構成は世界で最も異質の部類に入ります。まずカナダの建国に与ったフランス系——その大半はケベック州に集中しています——とアングロ・サクソン系という、二つの民族が、それぞれ三分の一づつを占めています。あとの三分の一は、日系カナダ人を含め、世界のほとんどあらゆる国々からやってきた人々またはその子孫です。

フランス語を話すカナダ人の気持は理解できませんが、ただ振り子があまり極端にゆれがちです。個人的には、ケベック以外のカナダで過去十年間、二言語にする努力を続け、ある程度は成功したのに、ケベックの現政権が州の公用語をフランス語だけにしようと一生懸命になっているのは、遺憾です。

道路標識が英仏両語からフランス語だけになった、ということですが、残念なことです。ところで、ケベック州の言語法については、昨年の暮れ、ケベック州最高裁判所が「越権行為」であるという判決を下しましたので、議会や裁判所における二言語使用はそのまま生きているわけです。つまり、州民は裁判所で英語がフランス語のいずれを使ってもいい、ということなのです。ただしこの件は、連邦最高裁判所に上訴されることになっています。

フランス系カナダ人の心情を理解するという意味では、今はむずかしい時期です。私は心から同情しています。ただ、極端に走るのはいけません。振り子がま

ん中のところに戻るよう、期待するほかありません。とにかく、私たちは数百年間も一緒に住んできました。今後ともそうできないわけはありません。それぞれがカナダという独特な社会の建設に貢献することによって得られる利益を、今後とも認識し、評価することは可能です。

対外政策の基本

松山 今度は対外政策について考えてみたいのですが——。日本政府の対外政策には、三つの柱があります。第一は西側陣営に属すること、第二はアジアの一国であること、第三は国連を尊重することです。この三点を日本外交の三本柱と呼んだのは、池田首相か佐藤首相ではなかったかと記憶しています。

日本は、カナダと同様、現時点の国際社会における相互依存の重要性を深く認識しております。日本の国連に対する醸出金は、米ソに次いで多く、カナダよりもずっと多額です。しかし、国連、軍縮会議、環境会議といった国際的組織や会議におけるカナダの評判は、日本よりはるかに高い。それはなぜか——カナダに滞在中、そのことをずっと考えていました。

それには二つの理由があると思います。第一は、日本の外交政策がユニークさと魅力に欠けていることです。日本はただアメリカの政策に追随しているだけだ、という印象を、世界、とりわけ第三世界に与えています。ところが、カナダには独自の外交政策があつて、それが第三世界の熱烈な支持を得ています。これがひとつの大きな違いです。



第二の理由は、主に言葉の問題です。国際社会で活躍できる日本人は、非常に少ない。日本社会の主流にいる人たちは国際的活動が苦手だし、国際的評価を得ている人たちは日本社会の主流から受け入れられない、という不幸な状況があるためです。もちろん、牛場氏（前対外経済相）のようなケースはありますが、彼の場合はやはり例外ですね。大方の日本人は国際問題にあまり通じていないし、関心も強くありません。日本と比べて醸出金の少ないカナダが国際社会で高く評価されているのは、カナダ人の国際

的関心が高いからではないでしょうか。日本は醸出金の額こそ大きいものの、そのわりに他の国々から一目置かれていない。大使のご意見はいかがですか。

大使 大体おっしゃる通りでしょうね。ただ、公平を期すために申し上げますと、わが国は国民総生産に比べて国連への醸出金をだすものから、日本が金額では三番目で、国連総予算の八・六パーセントを占め、カナダが三・五パーセントを占めているといつても、対国民総生産比で言えばカナダの方が多しと言えるところはありません。しかし、これは重要なことではありません。それどころか、（醸出金の多寡は）ある国の国際問題における

役割にとつて、きわめて些細な側面です。

松山さんは日本外交における三本の柱について言及されましたが、日本は一大工業国としてOECD（経済協力開発機構）の開発援助委員会の一員であり、西洋的な工業国でありながら、地理的にはアジアに属しています。どちらの陣営にも属しているわけですが、日本としてはどちらにもちゃんと属しているか確信がもてない。精神分裂症的なところがあるんじゃないですか。

国連については、私は国連総会に七回出席し、日本の国連代表部の方々ともよく会っていたのですが、どうも当然示すべきイニシアチブに欠けている感じがしました。せっかく貢献できることは多いのに、尻込みしているという感じでしたね。一種の内気とでもいうか——。言葉が壁になっているということですが、あるいはそうかもしれません。

松山 二国間交渉には慣れているんですがね。多国間交渉となると、どうも……

大使 多国間外交というのは、日本にとつてむずかしいかもしれませんね。日本の文化や伝統にそまないのであれば、国連にいた七年間に、その例をたくさん見ました。日本はもつとちゃんとした役割が果たせるのに、果たそうとしなかった。それは、先ほど申し上げましたように、ある種の内気によるものでしょう。態度をはっきりさせるべきときに、決議投票を棄権する傾向がありました。日本が何らかの立場をとる用意があれば、全般的な評判も良かったのではないかと私は思います。

国連に対する日本の醸出金が多いとい